



優秀賞

北海道 株式会社 忠和商事 「ソフトバレーボール大会」事業



株式会社 忠和商事
代表取締役 社長
中村和利さん

住民の要望に応え 地域で人気のスポーツを支援

生涯スポーツとして人気のソフトバレーボール
ソフトバレーボールというスポーツをご存知だろうか。基本的なルールはバレーボールと同じだが(一部、異なる)、4人が1チームとなり、バドミントンのダブルス用コートを使い、1セット15点先取の3セットマッチで行われる。最大の特徴は、競技名が示すように、使用されるボールが軟らかいことである。それによって、老若男女が、それぞれのレベルに応じて楽しめる生涯スポーツとなっている。1980年代後半から競技が始まり、1990年には日本ソフトバレーボール連盟が発足し、全国大会なども開かれている。

地域により、その浸透ぶりは異なるが、北海道の釧路エリアはソフトバレーボールの盛んな土地のひとつである。釧路郡釧路町を拠点に3店舗のパチンコホールのほか、スポーツクラブやゴルフショップなどを展開する(株)忠和商事(ラビットグループ)では、市民スポーツとして人気のあるソフトバレーボールを支援する活動として、2006年から毎年、「ラビット杯ソフトバレーボール大会」を主催している。参加チームは年々、増加し、昨年11月の第6回大会には、トリムの部4クラス、レディースの部2クラスに、合計53チーム・287名の選手が参加して熱戦を繰り広げた。

「12、3年前からさまざまなスポーツの支援活動を行ってきているなかで、釧路ソフトバレーボール連盟の方と知り合う機会があり、大会主催者という形で協力することになりました」と、代表取締役 社長で北遊連と釧路方面遊技業協同組合の理事長を兼務する中村和利さんは話す。「誰でも参加できる大会として人気があり、ホールにおいてのお客様の中にも、この大会を楽しみにしているという方がいらっしゃいます」と、総務部 部長の杉田哲さん。大会の告知や参加募集活動は連盟が行うが、ラビットグループのホールではポスターを掲示したり、熱戦の様子をスナップした写真を貼り出したり、優勝杯や賞品を提供するなど、大会の盛り上げに一役買っている。大会の様子は地元紙などでも伝えられ、地域の人々に広く知ら



2006年から毎年「ラビット杯ソフトバレーボール大会」を主催



昨年11月の第6回大会には、合計53チーム・287名の選手が参加し熱戦を繰り広げた

れている。

青少年の健全育成による地域づくりをお手伝い

季節に関わらず楽しめるインドアスポーツという側面が、寒い冬季の長い釧路エリアでソフトバレーボールが盛んな理由のひとつだと思われるが、気の合う仲間や友人・知人、職場の同僚などがチームを組み、毎週、地域内のどこかで練習や試合が行われているというから、その人気ぶりがうかがえる。そうした市民の熱意に応え、市民に喜んでもらえるものを提供していくという忠和商事の活動は、「もっと楽しいをもっとカタチに……」をモットーとするラビットグループの企業姿勢を象徴するものでもあり、地域に根ざした企業が進める社会貢献の手本とも言えるだろう。

忠和商事では青少年の健全育成という観点から、少年野球の支援も長く続けている。その一環となる大会が、「ラビットグループ杯争奪釧路管内中学生野球大会」と「ラビットグループ杯争奪釧路地区少年軟式野球大会」である。地元の野球少年にとっては、日ごろの練習の成果を試す絶好の機会であり、毎年、熱い戦いが繰り広げられる。青少年の健全育成に力を注ぐのは、中村社長の「子ども



地元のお祭りのスポンサーとして打ち上げた三尺玉花火



長年にわたり支援している少年野球大会

が健全に育たないと地域はよくなる」という信念に基づくものだが、地域の将来の発展の鍵を握っているのが、やはり子どもたちであることは間違いない。こうした大会に参加した子どもたちのなかから、地域の核となる人材が育っていくことが大いに期待される。

このほかにもラビットグループでは、地域活性化を支援するため「釧路大漁どんぼく」という地元の祭りのスポンサーとして三尺玉花火を打ち上げたり、社員による献血などに継続的に取り組んでいる。こうした活動を通じ、地元貢献する企業としての存在感を確かなものとしていくように感じられた。